

2026年（第112回）二級臨床検査士資格認定試験
受験予定のみなさんに

公益社団法人日本臨床検査同学院

理事長 宮地勇人

臨床検査士資格認定試験についてご説明します。みなさんもよくご存知の通り、この試験は臨床検査技師の国家試験制度に先行して、橋本 寛敏、緒方 富雄、坂口 康造先生など臨床病理学創成期の大先輩が、検査業務に直接関与する技師の技術・知識の向上を目的として開始されたものです。当初は日本臨床病理学会（現・日本臨床検査医学会）が実施してきましたが、試験業務のような実務を学会が扱う是非についての議論があり、緒方 富雄先生らが試験運営に特化した日本臨床病理同学院（現・日本臨床検査同学院）を設立され、以後、試験事業は両者の共催という形で現在に至っています。

なお、試験は同学院に設置された12の専門部会の構成員や、指導的立場にある医師や臨床検査技師の協力を得て、時代の要請に沿えるように試験内容を適宜見直して実施しています。二級臨床検査士資格認定試験を受験される方々は各科目の出題基準を事前に十分検討した上で、認定試験に挑戦してください。

緒方先生の「ピアノのコンクールで実技を伴わないものがあるだろうか？」という言葉に象徴されるように、実技を主体とした試験を実施するというのが同学院の一貫した方針です。試験会場、試験実行委員の確保、必要試薬、器具の調達など問題も山積していますが、これを継続実施させようという多くの先輩の絶えまない努力があります。現在、二級臨床検査士資格認定試験の合格者は全分野で43,067名おり、日本全国はもちろんのこと、海外でも活躍しています。本試験の合格者はこれを契機としてさらに研鑽に努め、それぞれの分野でリーダー的役割を担う技師として活躍されることを望みます。

二級臨床検査士資格認定試験の上の資格として、技師長クラスや博士号保有クラスなど指導的立場の中堅技師を念頭に置いたより高度な技術と知識を問う一級臨床検査士資格認定試験も実施されています。みなさんもさらに経験を積み、いつの日いか挑戦されることを期待します。

試験の実施要領は同学院のホームページで公表されています。出題基準や試験場所、期日を確認し、十分に準備して受験してください。

みなさんのご健闘を心よりお祈りいたします。